

(体育)

楽しさや喜びを味わう体育科学習

—自ら運動に親しみ、体力の向上をめざす子どもを育てる—

大阪市立桜宮小学校

1. 研究主題設定の理由

本校では「進んで 考え がんばろう」という校訓をかかげ、自ら学び、進んで取り組み、相手の立場に立って考え、共に助け合い高め合う子どもの育成をめざしている。これをもとに、「自ら学び考え、心豊かで、明るくたくましい、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成」に努め、あらゆる教育の場面や機会をとらえ、この課題に向かって日々の実践を積み重ねてきた。

その中で、これまで数年にわたって体育科の研究を進めてきた結果、児童の運動に対する関心・意欲は高まり、運動習慣も定着してきた。しかし、5年前からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、体育科の学習のみならず運動自体が制限され、児童の体力や運動能力の低下が懸念された。そこで、体育科の学習を通して運動好きな子どもを育てるとともに、本校の特色である「桜の力」の取組をあらためて見直し、体力・運動能力のさらなる向上を図る必要があると考えた。

これまでの研究の成果を踏まえ、「協働的な学びの視点に重点を置いたアクティブタイムを設定することで、自ら運動に親しみ、体力の向上を目指す子どもを育むことができる」という仮説のもと、体育科学習の指導の在り方について研究を深めるべく、研究主題を「楽しさや喜びを味わう体育科学習」と設定し、研究を進めてきた。

2. 研究の趣旨

これまでの体育科の研究では、「目標の設定」「場の充実」「時間の確保」の3点に焦点を当ててきた。本校独自の体育の通知票である「桜の力」の活用を図ることで「目標の設定」を、ジャンピングボードや竹馬、バスケットゴール等の器具用具・設備の保全・整備をすることで「場の充実」を、そして業間の時間を20分にするすることで「時間の確保」をしてきた。その結果、積極的に運動場に出て体を動かす児童が増え、遊びの多様化も進んできた。運動に慣れ親しむ児童が増えたことに伴い、「体育の学習が楽しい」「できることが増えてうれしい」といった声も、より多く出るようになった。

この成果をさらに継続・伸長させ、児童がより体育科学習に主体的に取り組み、友達との対話を通して学びを深めながら体力・運動能力の向上を図ることが大切である。そのためには、指導者の適切な働きかけ、「アクティブタイム」の在り方、「桜の力」を含めた運動環境について研究を深めていくことが必要であると考えた。特に「アクティブタイム」については、ボール運動などの集団種目では有効であったことが証明されてきたが、本年度は器械運動領域や水泳領域などの個人種目においても効果的であるか検証することにした。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 主体的・対話的で深い学びを通して課題を解決するための指導者の働きかけ

○ 学習カードや学習資料、作戦ボード、ICT機器などを活用することで、学習への意欲を高め

るとともに、課題解決に向けての手立てとする。

- ペアやグループでの話し合い活動を必ず設定し、積極的な対話を通して学びを深めることができるようにする。
- 良い動きへの称賛、苦手な児童への支援や励ましを適宜行う。

視点② 主体的に運動に取り組む場（アクティブタイム）の設定

- 「アクティブタイム」の設定により、学習の進め方を理解させ、主体的に活動できるようにする。
- 課題解決に向けた活動時間を確保することで、個々の技能を高め意欲の向上につなげる。
- 話し合いや教え合いを活発に行わせ、友達と協働して学ぶことの大切さを体感させる。

視点③ 体力向上に向けた運動環境の整備

- 場や教具を工夫して運動に対する興味や関心を高め、体力の向上につなげる。
- 「桜の力」週間を設定し、縦割り班活動を取り入れたりしながら運動意欲の向上を図る。
- 委員会活動と連携し、運動の解説動画の作成や遊具の整理整頓などの環境整備を行う。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 学習カードや学習資料、タブレット端末等のICT機器の活用により、運動の特性や動きのポイントが明確になり、一人一人の児童が課題をつかむ手立てにすることができた。その課題を解決するという目標をもって活動し、しっかりと学習の振り返りを行うことで、意欲的に学習に取り組もうとする態度が育ってきた。
- 課題を解決したり、場づくりや作戦について考えたりする場面において、必ず話し合いや伝え合う活動を取り入れたことで、学びを深める時間が確保され、進んで課題の解決に努めようとしていた。
- 「アクティブタイム」を設定したことにより、児童は体育科の学習の進め方を理解し、友達と協力しながら自主的に活動することができるようになった。また、友達に認められたり称賛されたりしたことが自信となって、意欲が高まり技能の向上につながる児童が増えた。
- 題材の選定、ゲームの仕方やルール工夫、音楽の活用など、児童一人一人のもっている力で楽しむことのできる場をつくり出すことにより、運動に対する苦手意識を取り払うとともに、運動へのより積極的な参加につながり、みんなで楽しみながら体力の向上を図ることができた。
- 「桜の力」の取組は、運動に対する興味・関心の喚起、運動習慣の定着、挑戦しようとする意識の向上など、多くの面で効果を上げることができた。

(2) 今後の課題

- 学年相互の系統性を明確にし、低学年から段階的な学習を積み重ねる。
- 「アクティブタイム」をさらに充実させるために、動きを見るポイントが分かる力、がんばりを認め合える力、自分の役割を理解して活動できる力をさらに高めていく。
- 季節や時期、あるいは感染症対策等に合わせた取組ができるよう、「桜の力」のより一層の充実を図る。
- 児童一人一人の思考力・表現力が高まるように、タブレット端末などICT機器の活用についてさらに研究を深める。